

## 開学20周年に寄せて



奈良県知事  
荒井正吾

奈良先端科学技術大学院大学が、めでたく創立20周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

貴大学は、奈良・京都・大阪の三府県にわたって整備を進める「関西文化学術研究都市」の中核をなす大学として、奈良県生駒市高山地区に創立され、数多くの世界的な研究成果をあげられるとともに、我が国のみならず、世界各地で活躍しておられる多くの科学者・研究者を輩出してこられたことは、奈良県としても大いに誇りとするところであります。

さて、科学技術を取り巻く情勢は、厳しい財政状況にあっても研究開発投資の拡充が図られ、数々の研究成果や実績が積み重ねられてきました。本年8月に策定された「第4期科学技術基本計画」においては、関西文化学術研究都市などの既に研究施設・設備等の集積の進んだ研究開発拠点においても一層の発展に向けた機能強化を図り、産学官協働のための「場」を構築することが求められています。

貴大学は、我が国の科学技術政策の重要な分野である「情報科学」、「バイオサイエンス」、「物質創成科学」の3つの分野で最先端の科学技術の研究をされ、さらに、この3分野を融合した領域へと研究を広げ、さらなる挑戦をされようとしています。「第4期科学技術基本計画」においても、必ずや貴大学がその中心的な役割を果たされるものと確信しております。

また、本年3月11日に発生しました東日本大震災は広範な地域に極めて深刻な社会的・経済的影響をもたらし、さらに、9月には台風12号及び15号により紀伊半島南部に多大な被害が発生しました。これらの災害により、我が国はエネルギー政策について再考を迫られ、自然災害への対応力が課題となっていますが、科学技術イノベーションの推進により今後の復旧・復興を早期に実現し、奈良県や我が国における経済成長、発展の突破口となるものと考えております。

昨年、奈良県は平城遷都1300年の大きな節目を迎え、「平城遷都1300年祭」では、多くの方々に奈良への関心を高めていただきました。グローバル社会にどのように立ち向かい、どのようなスタンスをとるのかについても、新しい時代の区切りが来ていると感じています。奈良は、そのような大きな歴史を鳥瞰するにはうってつけの場所です。その意味で、日本のこれからを指し示す科学技術について、奈良の地で考えるということは大きな意味があると思いますし、また、奈良でしかできないことだと考えています。

世界の国々が科学技術の研究開発にしのぎを削っている中、最先端科学技術をリードする貴大学への期待はまことに大きいものがあります。今後のさらなる発展と充実を祈念いたしますとともに、産学官交流など地元産業界の技術革新・新産業の創出を期待いたします。